



～ 夢ひとすじに～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 25 年度 第 1 1 号

平成 26 年 3 月 3 日 (月) 発行

さいたま市立宮原中学校

メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「刺繍入りの卒業式」

校長 山下 誠 二

いよいよ一年を締めくくる月になります。3年生は、3日・4日と県公立高校の入試が始まります。入学許可候補者の発表が10日、そして14日は、卒業証書授与式です。

さて、次の数字は、何だと思いませんか。「1・2・3・1・3・1・2・3・3・2・3・3・1・2・3・1・2・3・3・3・1・2・3」。この数字は、私が担当した学年です。23年間で11回、3年生を担当しました。毎回のように卒業式は感動するものですが、その中でも思い出に残っている卒業式のことを今回はご紹介します。

現在37歳になる教え子たちの卒業式です。卒業式前日の夜9時過ぎ、一本の電話が職員室にかかってきました。話の内容は、「3年生の数々が制服を新しく作りたい」という情報。「なぜ、卒業式前日に制服？」と思いつつも、すぐに私は、自分のクラスのU君に電話をし、「制服は何人作ったのか」と確認しました。すると9名の生徒が作ったようで、「じゃあ、全員制服を持って12時に全員職員室に集合。記念撮影してやるから」とU君に伝え、対応を考えました。12時に集合したのは8名。紙袋に制服が詰められ、見ると豪華な刺繍入りの短ランが……。背中には、「打倒埼玉県警」、左胸には「南無妙法蓮華経」、右胸には「〇〇命」と彼女たちの名前がきれいに刺繍されていました。「明日、これを着るのか?」「…………」。そんなやり取りをしていると、〇先生(現在の馬宮中学校長)が、「山下先生、蓮の字が違うよ」と教えてくれました。さすが、国語の先生です。「南無妙法蓮華経」が「南無妙法連華経」となっていました。「しめしめ」と思い、写真撮影をし、午前1時頃に帰宅させました。卒業式当日の朝の会、「U君、制服はどうした?」との問いに無言……。「今着ている制服の下に着ているだろ。せっかくだからクラスの皆さんに披露しなさい」「勘弁してください」……。渋々、教室の前に来て、刺繍入りの制服をみんなに披露。「さて、これから間違い探しを行います。わかった人は手を挙げて!」すると、さすがですね。浦和一女に進路が決まっていた生徒が、すぐさま「先生、蓮の字が違います」と答えてくれました。「この制服、卒業式で着るのか?」「着ません」「みんなにも言っとけよ」「はい」……。これで一件落着。しかし、これだけではかわいそうなので、先生方と相談し、卒業式後の校庭での見送りの際だけは着用を認めました。今じゃ信じられないような卒業式ですけど、3年前に同窓会が開催され、当時の話も交えながら楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



この一年間で、宮原中の生徒たちは、心も身体も大きく成長したと思います。「こんなことができるようになった。こんなことを頑張った。これを持っている。…」など、生徒一人ひとりに輝く何かがあったことと思います。自分のよいところを見つけて、自分を大切にしてほしい、また、自分を好きになってほしいと思います。

金子みすずさんの詩の「私と小鳥と鈴と」の中に「みんなちがってみんないい」ということばがあります。今一度、自分のよいところ再発見してみましょう。例えば、友達にやさしくできる。いつも、気持ちのよいあいさつができる。どんなときも一生懸命にできる。人の話をしっかり聞ける。素直だと思う。人のいやがることはぜったいしない。委員会や係活動を頑張っている等 小さなことでもいいので、自分のよいところをたくさん見つけてみましょう。そして、それが、友達のよいところをたくさん見つけられることにもつながると思います。

これからも生徒たちには、自分を輝かせるために、自分を大切に、そしてまわりの人を大切にしてほしいと願います。これまで多大なご支援とご協力をいただきました保護者の皆様、地域の皆様には感謝申し上げますとともに、これからもお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

